

■鈴木清風 豪商，俳人。紅花の豪商で芭蕉と親交。江戸と往来しながら農民救済等に尽力するも改革の犠牲に。

すずきせいふう

徳川家光没・1651＝ 出羽国村山郡尾花沢村で、嶋田屋鈴木八右衛門道西の長男に生まれる。母はたへ(妙良)。

新利根川完成1654＝ 3歳：この頃から、父が諸物品の買継の他、金融業を営むようになる。

明暦の大火・1657＝ 6歳：

・・・1660＝ 9歳：

酒井忠清大老1666＝15歳：

ジャクシャインの乱 1669＝18歳：

藤十郎登場・1678＝27歳：

越後騒動・・・1679＝28歳：_“残月軒清風”と号する。高政撰「中庸姿」に独吟歌仙入集。

徳川綱吉將軍1680＝29歳：

天下一禁止・1681＝30歳：*言水撰「東日記」に入集。芭蕉も含めて150人の俳人の句を自撰した「おくれ双六」を刊行。

好色一代男・1682＝31歳：_三千風撰「松島眺望集」に清風および妙良(母)入集。

堀田正俊暗殺1684＝33歳：

出世景清初演1685＝34歳：祖父が死去。_380人の俳人の句を自撰した「稲庭」を、才麿序で刊行。調實撰「白根嶽」に入集。江戸・小石川で、芭蕉の主客となり、蕉門俳人らと「古式百韻」を興行。調和撰「ひとつ星」に入集。

・・・1686＝35歳：上京中、三千風が尾花沢の鈴木家に来訪し滞在。_江戸・小石川で、芭蕉を主客に、蕉門俳人らと七吟歌仙興行。有名俳人とともに詠んだ歌仙十巻をおさめる「俳諧一橋」を、友静序で刊行。

生類憐令始・1687＝36歳：

日本永代蔵・1688＝37歳：養泉寺大改修。妻が死去。

・・・1689＝38歳：*等躬撰「葱摺」・言水撰「前後園」に入集。おくのほそ道行脚中の芭蕉と曾良が尾花沢鈴木家に来訪し、二歌仙を巻き、芭蕉が出羽路の旅を円滑に続けられるよう、自らの俳友多数を紹介。

湯島聖堂・・・1690＝39歳：この頃、鈴木家で質地さかんに集積する。

別子銅山始・1691＝40歳：_賀子撰「蓮の実」・江水撰「元禄百人一句」に入集。

世間胸算用・1692＝41歳：*父の隠居により、八右衛門を襲名し道祐と号する。酒田で思考・不玉と三吟歌仙を巻く。不玉撰「継尾集」・助斐撰「新始」に入集。

芭蕉+師宣没 1694＝43歳：この年、芭蕉が大阪で死去。

生類憐令頂点1695＝44歳：

重秀勘定奉行1696＝45歳：・・・1697＝46歳：後妻が死去。発願し、京都で工事中断となっていた寺を見つけて買い取り、解体して尾花沢に運び、貧弱だった菩提寺念通寺を、門徒一同の支援を得て、現在に続く本格的な寺院に改築。

吉保大老格・1698＝47歳：江戸商人井口久左衛門と共に、白河藩および秋田藩の江戸蔵元を勤める。この年、頓知をきかせて大儲けすると、吉原を締め切って、遊女すべてに休みを与える。

・・・1699＝48歳：祖母が死去。_等躬撰「伊達衣」に入集。

松の廊下事件1701＝50歳：凶作続くなか、さまざまな形で農民を救済し、江戸城に呼ばれ、勘定奉行荻原重秀から直々に表彰・褒美を受ける。_調和・立志・艶土三評「月並前句付集」に入集。

御蔭参流行・1705＝54歳：_等躬撰「一の木戸」に入集。

・・・1706＝55歳：母たへ(妙良)が死去。

富士宝永噴火1707＝56歳：江戸商人久保寺・後藤両問屋と、新庄藩の江戸為替を組む。

徳川綱吉没・1709＝58歳：三番目の妻も死去。

冥途の飛脚・1711＝60歳：*家産分与し、遺言して隠居。

絵島事件・・・1714＝63歳：父が死去。

徳川吉宗將軍1716＝65歳：この年、_新將軍徳川吉宗による享保の改革が始まると、鈴木家は莫大な損害を受け、俳諧も辞めて、隅田川の桜・1717＝66歳：酒田商人鈴木伊右衛門へ、家屋敷土蔵を質物にとって、金五百両を融資するなど、

・・・1719＝68歳：四番目の妻も死去するなど、

_不幸のまま、

小石川薬園・1721＝70歳：_没した。

辞世'本来の磁石を知るや春の雁'。念通寺改築時の考えどおり、鈴木家はもちろん自らの墓をつくらず、門徒一同の共同墓骨堂に葬られる。